This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

```
=> s jp51047007/pn
            1 JP51047007/PN
L9
=> d 19 all
    ANSWER 1 OF 1 CAPLUS COPYRIGHT 2001 ACS
        Litina
       References
  Text
     1976:465196 CAPLUS
     85:65196
DN
ΤI
    Cleaning compositions
    Makino, Yoshio; Takahashi, Hideki; Wada, Yutaka
ΙN
    Nippon Oils and Fats Co., Ltd., Japan
PΑ
    Japan. Kokai, 5 pp.
    CODEN: JKXXAF
DT
    Patent
LA
    Japanese
    C11D001-37
ΙÇ
     46-6 (Surface Active Agents and Detergents)
CC
FAN.CNT 1
                    KIND DATE
                                          APPLICATION NO. DATE
     PATENT NO.
                                          -----
     _____ -----
                                          JP 1974-121251 19741021
                     A2 19760422
     JP 51047007
PΙ
    Cleaning compns. having good stability and detergency comprised
AΒ
     alkylbenzenesulfonates and esters or salts of \alpha-sulfo fatty acids.
     Thus, a liq. cleaning compn. was prepd. from 80% Na salt of \alpha-sulfo
    hardened beef tallow fatty acid Me ester and 20% Na
     dodecylbenzenesulfonate [25155-30-0].
     alkylbenzenesulfonate cleaning compn; fatty acid sulfonate detergent
ST
ΙT
     Detergents
        (cleaning compns., contg. dodecylbenzenesulfonates and fatty acid ester
        sulfonates)
ΙT
     Fatty acids, esters
     RL: USES (Uses)
        (coconut oil and tallow, sulfonated, lower alkyl esters, salts,
        cleaning compns. contg. dodecylbenzenesulfonates and)
                <u>59901-99-4</u>
ΙT
     <u> 13830-78-9</u>
     RL: USES (Uses)
        (cleaning compns., contg. dodecylbenzenesulfonate)
IT
     25155-30-0
     RL: USES (Uses)
        (cleaning compns., contg. fatty acid sulfonates)
```



昭和49年10月21日

圃

フ リガナ 発明の名称

フリガナ 発明者住所氏名

オオサカシスミノェクハマグラステ 大阪安住之江区兵口筋 2-3-5 ョシ オ 吉 夫 (ほか2名)

特許出願人

東京都千代田区有楽町



添付書類の目録

(1)





次の一般式

R-C-COOM, SO.M.

ただしRは良素数6ないし22の直鎖または分 枝丁ルキル基、 R; は水素原子またはメチル基、 Rzは炭素 ないし6のアルキル基、Mi はNa、 K 、エタノールアミン、アンモニウム、M2 は水 素または N a 、 K 、エタノールアミン、アンモニ ウムを示す(1)式または(2)式化合物の1種または2 種以上の混合物と一般式

19 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 51-47007

43公開日 昭51. (1976) 4 22

21)特願昭 49 - 121251

22出願日 昭49 (1974) 10 21

審査請求 未請求

(全5頁)

庁内整理番号

7419 46

52日本分類 19 F2

51 Int. C12

CIID 1/37/

(C110) 1/37 CIID

1/22 CIID: 1/28)

ただしRsは炭素数6ないし20の直鎖または 分枝アルキル基、 Mは前記Na、 K、 エタノール アミン または アンモニウム

であるで示す(3)化合物を主成分とし、かつ(1)また は(2)ないし(1) + (2)の代合物:(3)化合物の重量比が 20:1~400特に5:1~25であることを 特徴とする洗浄剤組成物。

3.発明の詳細を説明

本発明はアルキルペンゼンスルホン酸塩(以下 ABSという)との一スルホ脂肪酸塩およびまた は a ースルホ脂肪酸エステル塩を主成分としてな る旅状あるいは粉末侁浄剤組成物に関する。

合成洗剤中 A B S は洗浄力がきわめて優れてい るが、生物分解性が劣り発泡による河川の汚染を まねく。また合成洗剤中に含まれるリン酸系ピル ダーは河川湖沼などに蓄積して藻類、ブラジトン などの繁殖となり環境や化に逆行するなどの不利 があつた。

本発明はこれらの欠点を解決したもので、 次の 一般式

または

ただしRは $C_a \sim C_{22}$ の直鎖または分枝アルキル基、R,はHまたは C_{13} -、R $_{2}$ は C_{1} $\sim C_{6}$ のアルキル基、 M_{1} は N_{14} a、K、アルキロールアミン、アンモニウム、 M_{2} は M_{15} たは N_{15} a、K、アルキロールアミン、アンモニウムを示す M_{15} たは M_{15} では M_{15} を示す M_{15} では M_{15} の M_{15} では M_{15} の M_{15} では M_{15} では

ただし R_s は $C_s \sim C_{20}$ の直鎖または分枝アル アンモニタム サル塩、MはNa、K、TルキロールTミン

(3)式のMは前記M、と同じ対イオンである。(1)か(2)の1種または(1)と(2)の混合物と(3)化合物の比は20:1~400特に5:1~25で、この範囲外では洗浄力が低下し、耐硬水性もわるく、また性能低下し不利となる。

本発明洗浄剤は液状、粉末を問わず調製でき、液状の場合も、粉状のときと同様安定性にすぐれる。また洗浄力はきわめて良好であつて、従来品の 12~10 農産で使用できる。またヒルダーの使用も自由であり、耐候水性もよいからリン酸系ピルダーの瘀加を抑制しうる。

次に本発明の実施例を示す。 邮とがは重量で表わす。

実施例1 液体洗浄剤の場合;(1)化合物として。
ースルホ硬化牛脂脂肪酸メチルエステルソーダ塩、
(3)化合物はドデシルペンセンスルホン酸ソーダ塩をとり、第1表の量比で液体洗剤とし洗浄力を比較した。濃度は0.3 9/ Lとし試験法は油化学協会制定の人工汚染布丁/C(65/35)を用いた。
洗浄力試験法:

(1)式化合物性は炭素数 6 ないし2 2 の脂肪酸のアルコールエステルの a ースルホン酸塩である。分校がある場合も 近数アルキル基であり、高数脂肪酸としてはカブロン酸、カブリン酸、ラウリン酸、シリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸あるいは動物油、植物油例をばヤン油、パーム油、牛脂より得られる混合脂肪酸もしくは、合成脂肪酸もあげられる。

(1)式に用いるアルコールとしてはメタノール、 エタノール、プロパノール、プタノール、ヘキサ ノールなどで、(1)、(2)式にかける M· または M·2 はこれら化合物を水俗性塩とする対イオンで M· は N·a、 K、 アンモニウム、アルキロールアミン、 エタノールアミンで M·2 はこれ以外に水米原子で もよい。

汚染布を10cm×10cmの小片に切断し、浴量
1 L、温度25℃CaO換算150ppmの硬水中
ダーグ オート メータ
Terg-O-Tometerを用い4枚の汚染布を100
rpm で15分洗浄する。のち3 Lの水で軽くす
すぎ乾燥する。

洗浄力は 洗浄前後の 汚染布の反射 率を 側り 次式 から 計算する。

ただし R: 原布の反射率

R/: 汚染布の反射率

R₂; 洗浄後の汚染布の反射率

なお比較上次の粒状洗浄剤 1.5 g/lを用いたときの洗浄力を1:00とした。

トデンルベンゼンスルホン酸ソーダ	20%
トリポリリン酸ソーダ	3 6
ケイ酸ソータ	1 3
C M C	1
芒硝	2 2
水分	8



		疣	αースルホ硬化牛 脂脂肪酸メチルエス		洗 净力	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	_	剤	テルソーダ塩	ソーダ塩	(%)	
:	1	<u>.</u>	8.0	2 0	1 0 3	••
,	2	発	6 0	4 0	1 1 0	良好
	3	· 9月 · 品	4 0	60	108	. 及一对一 :
;	4		. 20	8 0	1 0 0	
1	5	比	1 0 0	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	8 1	不良
	6	品	_	100	6 5	やや良分

液性安定性は試料を急激に 3 でに冷却しついて 急に30℃に加温する。これを3回繰り返したの 常温における分離状態をみる。

実施例2 前記同様にピルダー不含の液体洗剤 を調製し0.39/んで性能を比較する。配合なら びに結果を第2表に示す。

*		aースルが使じてシ 脂肪酸イソプロピ	ンスルホンマン		
	剤	ルエステルソーダ塩	一多理	. (100)	安定性
13:		80	2 0	102	
	本			•	
14	発	6,0	4 0	. 1 0,9	良 好
15.	明	40 ·	. 6,0	. 106	
	. 43	2 0	8 0	1 0 1	
1.7	此	100	-	8 0	ヤヤ良好
-18	· 品·	· ·	-1 0 0	6 5	やや良好

,	ניק	7	y i		۵۵	7	~~	•	1	7	•	 4.7	7, a .	-	•	۰	,,_
	(1)		化	合	锄		6	5	95		}				_		
	(2)		化	合	物	•	3	5	45	ì	}				Z	0 9	
	(3)			•)		•				
	1	I.	ン	酸	ソ	-	Æ									4	
	2	T	1	酸	ソ	-	Ķ									5	
	c	M	С								٠			•		1	
	ŧ		硝												5 1	0	
	水		分							٠					:	5	

Æ	-	aースルホイソステア リン酸メチルエステル ジエタノールアミン酸	ンスルホンテン:		液 性 安定性
7	本	8 D	20	100	
8	発	6 0	4 0	103	良好
9	明品	4 0	6 0	101	12(x)
10		2 0	. 80	100	
1 1	比	1 0 0		7 5	やや良料
12	較品	-	1 0 0	6 5	やや食気

製ィソステアリン酸≠875を用いた。

実施例3 前記同様(1)+(3)の洗剤農度 0.3 9 / **しとし性能を試験すれば第3表である。**

前配洗剤を1.58/しとり性能を比較すれば第

<i>1</i> 6	粒状疣	aースルか牛前盾 防酸メチルエス テルソーダ塩	aースルナ優 化牛脂脂肪 酸ソーダ塩 (35%)	ンセンスル		固 化 防止性
	剤	(65%)	(35%)	列塩	(%)	· (95)
19	本	5 2	28	2 0	109	:
20	発	3 9	2 1	4 0	1 1 5	1 2
21	'朔.	2 6	1 4	6 0	113	
2 2	· 127	1 3	7	8 0	107	•
2 3	此	65	3 5	_	8 7	10
2.4	品			100	8 9	: 18

固化防止性は、試料500%を不完全防湿処理。 でえたカルトンに詰め密閉し、858RH、50 **じの恒温恒温槽に3日間放置後、中味を取出し** 20メンシュのふるいで軽くふるい、残留量の全 量に対する多で表わした。

下記配合で粒状洗剤を欝製した。

(1) + (3)	20%
トリポリリン酸ソーダ	3 6
2 ケイ酸ソーダ	1 2
炭酸ソーダ	4
き 俤	2 0
СмС	· 1 ·
ж Я	7

これらを1.59/2用い性能を比較すれば第5要

		第	5		
Æ	粒状洗剤	aースルオ硬化ヤン 脂肪酸エチルエス テルソーダ塩	トデンル・シゼ ンスルホン酸ソ 一ダ塩	洗净力	固化 防止性 (5)
25	本	8.0	2 0	105	
26	発	60	4 0	109	
27	明品	4 0	60	112	1.3
28	1	2 0	8 0	105	
29	比較	1 0 0	- .	85	1 2
30		_	100	100:	15

.	粒状洗剤	2ースルホー2ーメナル ペンタデカン酸メテルエ ステルソーダ塩	トデンルベンゼ ンスルボン酸 ソーダ塩	疣净力 \$	固 化防止性
37	*	80	20	100	
58	発	60	SE 140 E	105	1 2
59	明品	40	60	104	<u> </u>
40	00 :	20	8 0	101	
41	比較	100		8 4	1 6
42	8	 .	100	8.3	· 1 4

本発明品系20、系27かよび前配洗浄力試験 の比較品(洗浄力を100としたもの)在30につ き洗剤機度と洗浄力の関係を試験すれば第8表で

特開 昭51-47007 (4) 実施例4同様に性能を比較した。こ の場合(2)と(3)を用いる以外は、実施例4と同じ配 台である。この結果は第6長に示す。

Æ	文先	ロースルオ硬化。 牛脂脂肪酸ソ	トデンルベンゼ ンスルホン 使 ソ	洗净力	固 化 防止性	
. }	ξij	ーダ塩	一乡塩	(%)	. (55)	3
31	**	 8 0	20	1 0, 5		
32 ş	2	6 O	. 40	107		
ວວ	月品	4 0	6.0	109	1 0	
34		2 0	8 0	101		•
35 J	七晚	100	-	6 8	8	
56 8	1	_	100	89	1 2	

(1)	+ (2)	20 🕏
2 7	イ酸ソーダ	1 5
СМ	c	1
ŧ	确	6,0
水	Я	4

先9/1	0 2	` as :	0.5	1. 0	1. 5	2.0	:
4.20 4.20	76	98	103	112	115	118	
Æ 2 7	7 3	97	102	108	112	115	1 1 1 1 1
Æ 3 O	· - ·	5 8	63	97	100	105	
	٠.						

特開 昭51-470 0 7 (5) 章 斯 · 新 · 夏 · 展

昭和30年 / 月29日

前記以外の発明者 発明者住所氏名

アマガサキ シマツウチチョウ タカ ハン ヒデ キ

ニシノミヤシ ヒガンナルオ チョウ 西 官市 東 鳴尾 町 ノーノー/3C-308

> ワ ダ ユタカ 和 月 豊

经许产品官 審 夢 英 雄 第

/ 事件の表示 特願昭 4/9 - 第 / 2 / 2 5 / 号 (昭和 年春和第 号)

- 2 959028 洗净剂組成物
- 3 住所を変更した者

事件との関係 特許出顧人 旧住所 東京都千代田区有楽町/丁目 5 番地 新住所 〒100

京京都千代田区有楽町/丁目/0番/号

(434) 日本抽脂株式会社





